

平成 25 年度 第 1 回奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会
議事概要（助言・要請事項等）

<日 時> 平成 25 年 5 月 27 日（月） 14：00～16：00

<場 所> 沖縄県庁第 1 会議室

<出席者> 土屋委員長、伊澤委員、石井委員、岡野委員、尾崎委員、小野寺委員、久保田委員、芝委員、服部委員、宮本委員、山田委員、横田委員、米田委員
（欠席：太田委員。事務局関係者は省略）

<議 事> （１）世界遺産条約及び世界自然遺産について
（２）奄美・琉球のこれまでの経緯等について
（３）奄美・琉球の世界自然遺産としての価値の考え方について
（４）その他

<概 要>

○科学委員会の設置について

事務局より、奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会設置要綱を説明。本日付で施行することで出席者の合意が得られた。

○委員長選出

事務局案として琉球大学の土屋誠委員を委員長として選出することを提案、承認された。

○議事

議題 1. 世界遺産条約及び世界自然遺産について、及び議題 2. 奄美・琉球のこれまでの経緯等について

・世界遺産条約の概要、奄美・琉球のこれまでの経緯、奄美・琉球の世界自然遺産推薦に係る今後の主な手順、小笠原諸島（平成 23 年登録）の推薦・登録の経緯について、事務局より説明を行った。

<委員助言、要請事項等>

- ・世界遺産登録による観光客の急増と過剰利用が心配である。今後の保全策において非常に重要な点と考えている。
- ・登録によるプラス面の他に、マイナス面としてどのような事が生じているか教えていただきたい。過去の失敗をクリアできるように事前に準備して、推薦・登録していく必要があるだろう。
- ・奄美・琉球では、外来種対策が問題になると思われる。小笠原諸島でも要検討事項であった。
- ・奄美・琉球の価値を議論するにあたって、ユネスコへの提出文書の記述の中にもある

が、ある島だけで説明できない価値もある。群島レベルや周辺離島も含めて説明可能な価値も多い。いくつかの重要な島だけを選ぶと、つじつまが合わなくなる可能性もあるのではないか。

議題3. 奄美・琉球の世界自然遺産としての価値の考え方について

・奄美・琉球の価値の世界自然遺産としての価値の考え方、世界遺産暫定一覧表記載のためのユネスコへの提出文書について、事務局より説明を行った。

〈委員助言、要請事項等〉

・暫定一覧表では、「奄美・琉球」の名称が良いと思うが、価値を説明する際には、進化的生物学的に地域を定義づけて説明する方が良い。

・名称の問題は社会的要請もあり極めてデリケートである。学術的な観点以外にも配慮が必要。

・生物多様性において IUCN のレッドリスト記載種を高く評価する必要がある。小笠原諸島の評価について説明があったが、奄美・琉球においても、専門家の協力を得て、具体的な生物名や他地域との比較等に関する情報追加等の精査が必要。また、IUCN レッドリストへの掲載作業とも連動させる必要。それが我々専門家の役割。

・奄美では、森林の生物多様性の保全を図る上で、対象となる森を広い面積で確保できない、いびつな形でしか法的に担保できないという特徴がある。一方で、住民の間では、自然を守っていく機運が高まっている。既登録の世界自然遺産の事例として、地域住民による保全が認められた事例を紹介して欲しい。

・小笠原諸島では、地形地質の価値を最初に前面に出したが、結果として陸産貝類の適応放散等の価値が認められた。そこにどのような考え方の変化があったのか。

・奄美・琉球の強みは調査研究が進められていることである。奄美・琉球の価値の説明や今後の保全管理の検討等においては、専門家が持つ経験・知識を利用して作業を進めてほしい。科学委員会として、今後、どのような議論・作業が求められるか明示して欲しい。

・Conservation International は日本を生物多様性ホットスポットに選定しており、奄美・琉球がその中で大きな位置付けにあるが、ホットスポットは生物多様性が高いだけでなく、劣化のスピードが速いため指定されるものであり、保全対策も含めた議論が大事である。

・平成19年度と24年度に、モロイ氏（IUCN 専門家）に評価に来ていただき報告書も出ている。その際の指摘に対する改善や予算措置はどうなっているか。モロイ氏のコメントに対する改善点や積み残した点について明らかにして、次回以降に提示して欲しい。

・ユネスコへの提出文書等の資料には陸域の生物に関する内容が多いと感じた。生態系

では沿岸域のサンゴ礁等もあると思う。

- ・小笠原諸島の登録にあたっては、IUCN の要請で海域の区域を拡張している。海域に対する IUCN の関心は高いと思われ、奄美・琉球でも指摘されることが考えられる。
- ・平成 19 年度にモロイ氏の現地視察に同行したが、その際に「適切な大きさが必要」と強調していた。次回ではこの点も十分に検討したい。

議題 4. その他

特になし